

「第5回人と野生動植物の共生を考えるつどい」・「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト交流会in登米」  
(2013.08.24、登米市南方農村環境改善センター)」

# 「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」 内容とその意義



**呉地 正行 KURECHI Masayuki**  
**ラムサール・ネットワーク日本**  
Ramsar Network Japan  
**日本雁を保護する会**  
Japanese Association for Wild Geese Protection



10 田んぼの  
生物多様性向上  
年プロジェクト

# CONTENTS

- 湿地の減少と生物多様性の劣化
- 水田の湿地機能を活かした取り組み
- ラムサール水田決議からCBD水田決議（決定）へ
- 水田生態系の多様な生き物とその重要性
- 「国連生物多様性10年」と「愛知目標」達成をめざす、「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の発進と進捗状況

# 中国雲南省の水田地帯(現在) 日本の弥生式農業文化のルーツの一つ

数千年の歴史を持つアジアの水田

アジアの基層文化としての水田

ベトナムの水田地帯(現在)



# 乾田化した水田の割合 (宮農短大・千葉克己調べ)

## 平成12年度宮城県内圃場整備の例

採択地区 104箇所, 21,883ha

非乾田化  
水田  
4,924ha  
22.5%



乾田化  
水田  
16,959ha  
77.5%

約80%の水田が乾田化(暗渠排水工事)

自然湿地 ⇒ 湿田 ⇒ 乾田 ⇒ 超乾田

(冬の圃場の乾燥化; 特に太平洋岸)

↳ 水路の分断化

# 湿田を住みかにするする生きものが姿を消した ……トキも コウノトリも ……



ニホンアカガエル *Rana japonica*

準絶滅危惧

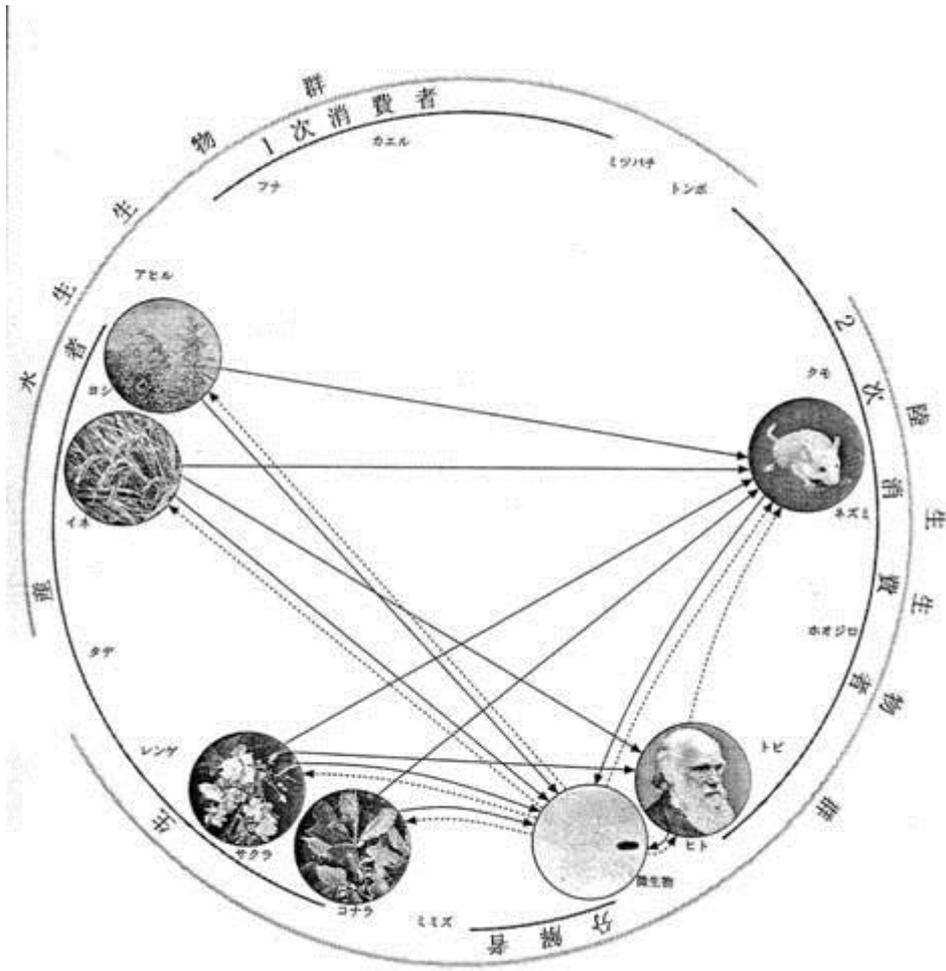
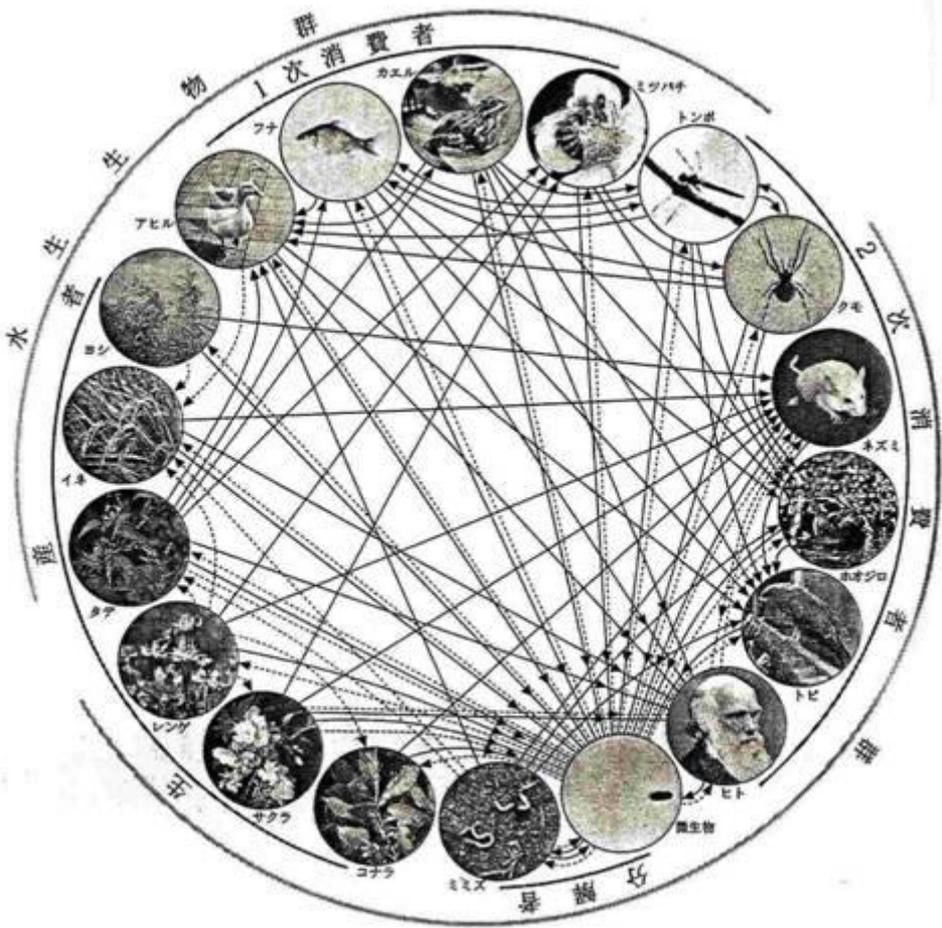
チュウサギ *Egretta intermedia*  
希少種



メダカ *Oryzias latipes* 絶滅危惧Ⅱ種

# 生き物のにぎわいはなぜ必要か

# 多様性を失った生態系



多様性が高く、安定な生態系

多様性が低く、不安定な生態系

- > エネルギーの流れ、食物連鎖など
- > 抑制、促進など何らかの相互作用

# 田んぼを活かした湿地回復

- 田んぼの湿地機能を活かす
- 水と水辺の生き物の力を活かす
- 先人の知恵を現代に活かす、古くて新しい取り組み(温故知新)
- ローテク・ハイセンス
- 古い＝長持ち＝持続可能

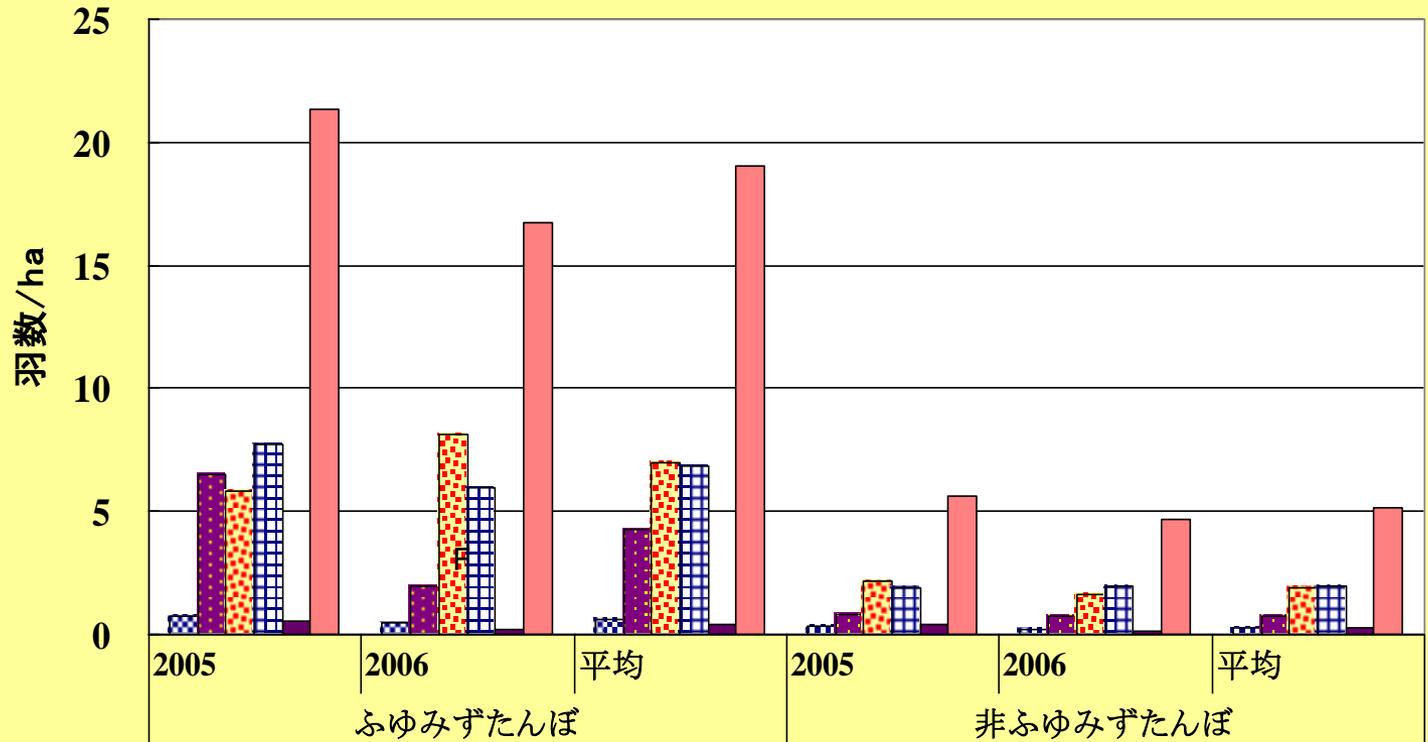
# 宮城県・蕪栗沼周辺での ふゆみずたんぼの取り組み

おこせ！田んぼの底力



水田の湿地機能を活かした取り組み

# 夏のふゆみずたんぼとその他田んぼのサギの密度 (2005,2006年夏の平均 n=1,980)

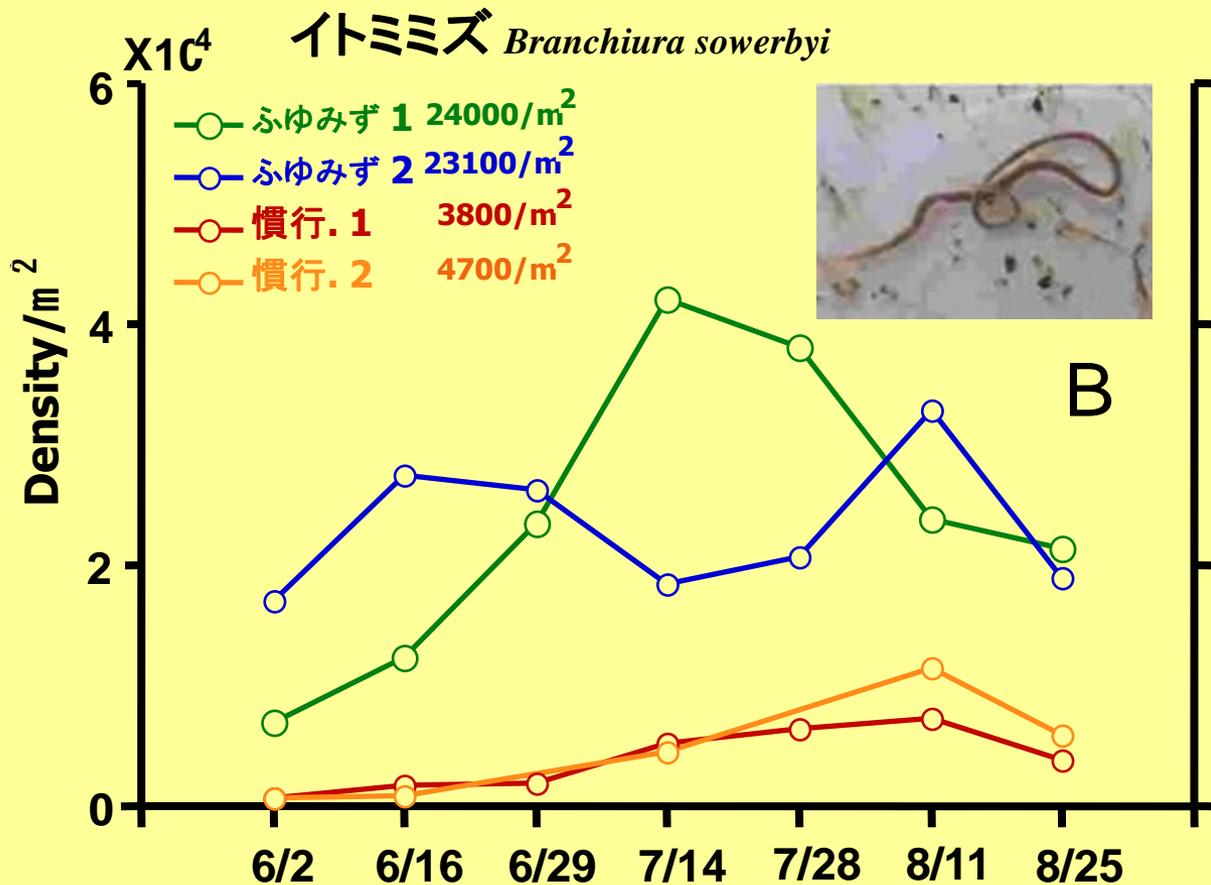
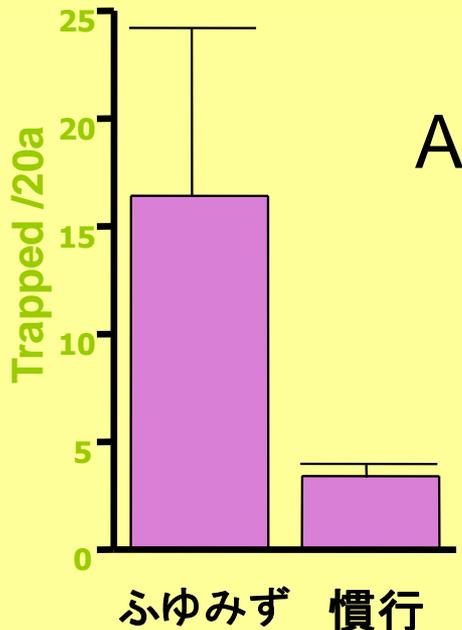


	ふゆみずたんぼ			非ふゆみずたんぼ		
	2005	2006	平均	2005	2006	平均
アオサギ	0.73	0.45	0.59	0.35	0.20	0.28
アマサギ	6.50	1.98	4.24	0.78	0.77	0.77
ダイサギ	5.85	8.16	7.01	2.19	1.62	1.91
チュウサギ	7.70	5.94	6.82	1.91	1.97	1.94
コサギ	0.58	0.20	0.39	0.39	0.14	0.27
Total	21.35	16.73	19.04	5.63	4.70	5.16

サギの密度が、3.7-4.4倍高い、夏のふゆみずたんぼ

# 夏のふゆみずたんぼとその他田んぼの ドジョウとイトミミズの密度

ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*



サギ ← ドジョウ ← イトミミズ ← ふゆみずたんぼ

ドジョウ(A) とイトミミズ(B) の密度が約5倍高い  
夏のふゆみずたんぼ (modified from Hirai et al,2006)

# ふゆ・みず・たんぼの3つの側面

## 〔水辺の生物〕= 生息環境の回復

- 生物多様性の向上: 微生物から水鳥まで
- ふゆみずたんぼのネットワークでガン類などの渡り経路の復元

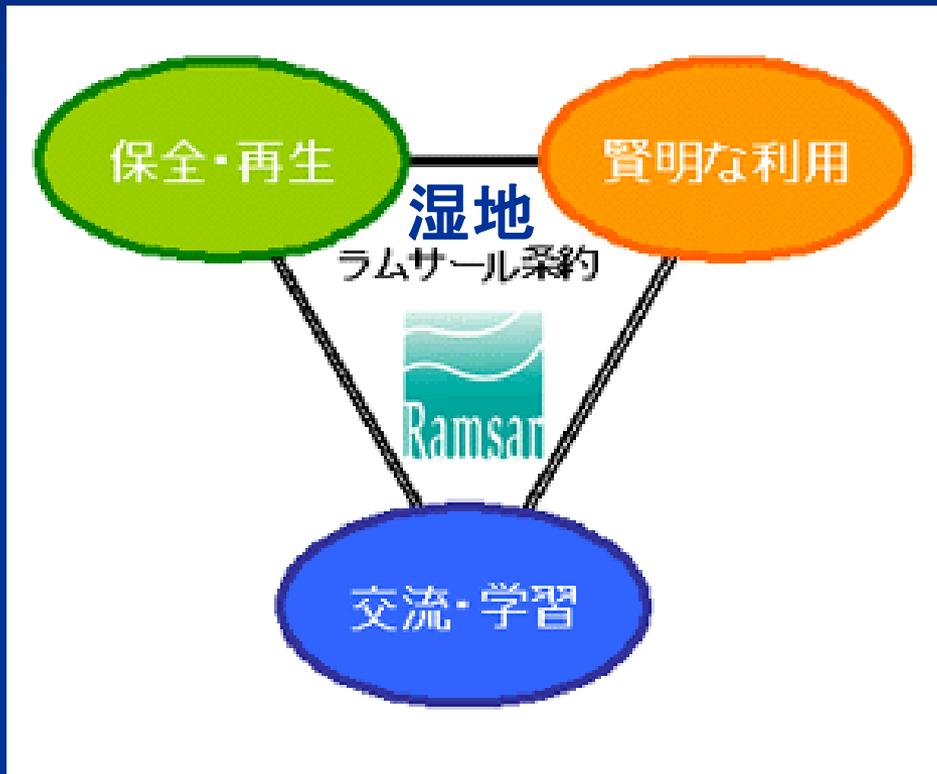
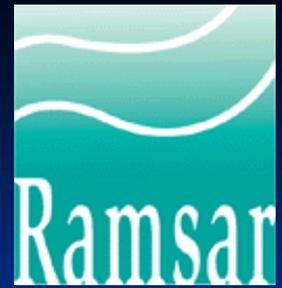
## 〔農業〕= 新しい農法= 「ふゆみずたんぼ農法」

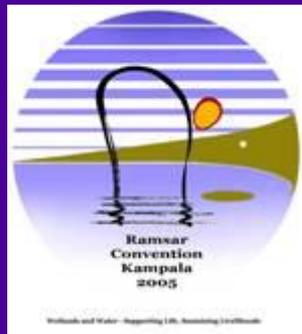
- 抑草効果
- 害虫抑制効果
- 糞による施肥効果
- 稲ワラの分解
- IBM(生物多様性総合管理)のモデル

## 〔農業と自然との共生を可能にする取り組み〕

- 持続可能
- 環境への負荷低減

# ラムサール条約と水田





# ラムサール条約の賢明な利用法めざす 蕪栗沼・周辺水田

●湿地としての水田の能力を  
活かす道具として活用

日本で初めての

田んぼ中心のラ条約湿地  
をめざした

「蕪栗沼・周辺水田」

「ラムサール条約への登録は、農作物の付加価値向上にもつながる」

(田尻町長)

三訂 七比 例千 準規

平成17年(2005年)6月11日(土曜日)

ラムサール条約  
蕪栗沼登録確実

## 水田と一体保全

### 共生へ農家の意識も変化

田尻町の蕪栗沼周辺の水田が、十一月のラムサール条約締結国会で湿地登録される見通しとなった。同条約への登録を目指す全国の湿地の中で、広大な水田と一体的な保全を目指す蕪栗沼のようなスタイルは、全国でもほかに例がない。(環境省東北地区自然保護事務所)

鳥獣保護区の指定をめぐっては、環境省は沼の保全だけでは不十分と判断。丘陵地帯などを除く広大なエリアに鳥獣保護区の網をかぶせた。マカ区は沼をねらうとするが、周辺の広範囲の水田を網羅している土地があるためだ。

当初は地元農家や親友

会との協議でも、「農作物を買い取る」「沼を保全して観光する」といった反発が予想以上に根強かった。

蕪栗沼は過去にも鳥獣保護区指定の動きがあり、農家の反対で実現しなかった経緯がある。最近では苦手が目立たなくなったとはいえ、野鳥に対するアレルギーは完全に

は消えない。

今回、鳥獣保護区の範囲は環境省が想定したもののよりは狭まった。田尻山町が外れたのははじめ、田尻町にかかるとも、田尻町に縮小した。

こうした面折を知る公聴会の参加者の一人、日本産を保護する会の鳥地正行会長は「環境保全に取り組み農家の負担軽減など、野鳥と農業の共生を推進するようないち歩を進めたい」と語り、

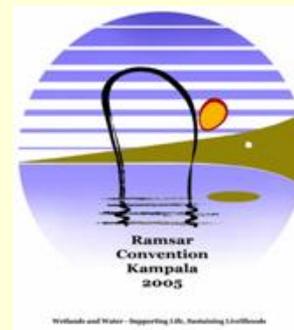
公聴会には堀江敏正田尻町長や佐藤勇美栗原市長、地元土地改良区や自然保護団体の代表ら10人が出席した

鳥獣保護区指定をめぐっては、環境省は沼の保全だけでは不十分と判断。丘陵地帯などを除く広大なエリアに鳥獣保護区の網をかぶせた。マカ区は沼をねらうとするが、周辺の広範囲の水田を網羅している土地があるためだ。

当初は地元農家や親友

# *The Ramsar Convention on Wetlands*

## The 9th Meeting of the Conference of the Contracting Parties



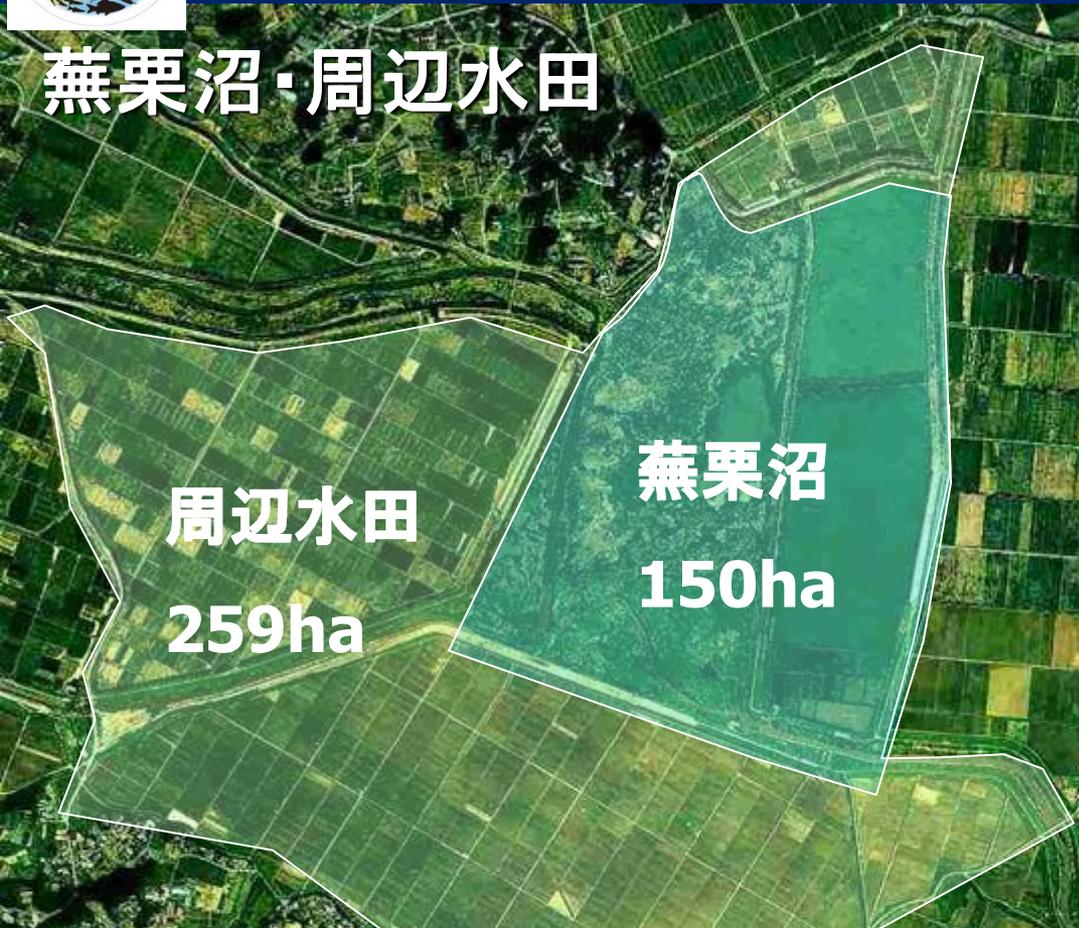
第9回ラムサール条約締約国会議（2005年11月）アフリカ・ウガンダ）  
蕪栗沼・周辺水田が新たなラムサール条約湿地となる

# 「新らしい考え方」のラムサール条約湿地

## 蕪栗沼・周辺水田の誕生 (2005年11月)



### 蕪栗沼・周辺水田



- 地元関係者の合意に基づき、**水田を広く含む初めてのラムサール条約湿地**
- ラムサールは環境を活かした水田農業に**役立つ道具**となるという**新しい考え方**
- 水田の湿地機能を積極的に生かした**地域づくり**
- 環境に配慮して生産された**ふゆみずたんぼ米**が、**安全性と、生物多様性の視点から高く評価**

ラムサールCOP10(2008)での、**水田決議X.31**(「湿地システムとしての水田の生物多様性の向上」)採択へ

# ラムサール条約湿地内の水田で生産される付加価値の高い ふゆみずたんぼ米(ラムサール・ブランド米)

- ラムサール条約湿地内の水田で、生きものの力を活かしたふゆみずたんぼ米を集団作付け（2004年以降、20ha）
- 生きものの生息環境の創造と、生きものと共存をめざす農業者への経済的な恩恵の創出
- 田尻町(現大崎市)が、町独自の環境直接支払い制度で取り組みの立ち上げを支援した

## 成果：

多くの水鳥で賑わう水田が、農業に恩恵をもたらすことを実証

- 今後の課題；  
面的な広がりの推進(地域及び全国レベル)とネットワーク化及び、水鳥の渡り経路の復元

ふゆみずたんぼ米



# ラムサールCOP10での ・水田決議(X.31)採択 (2008年 韓国・昌原市)

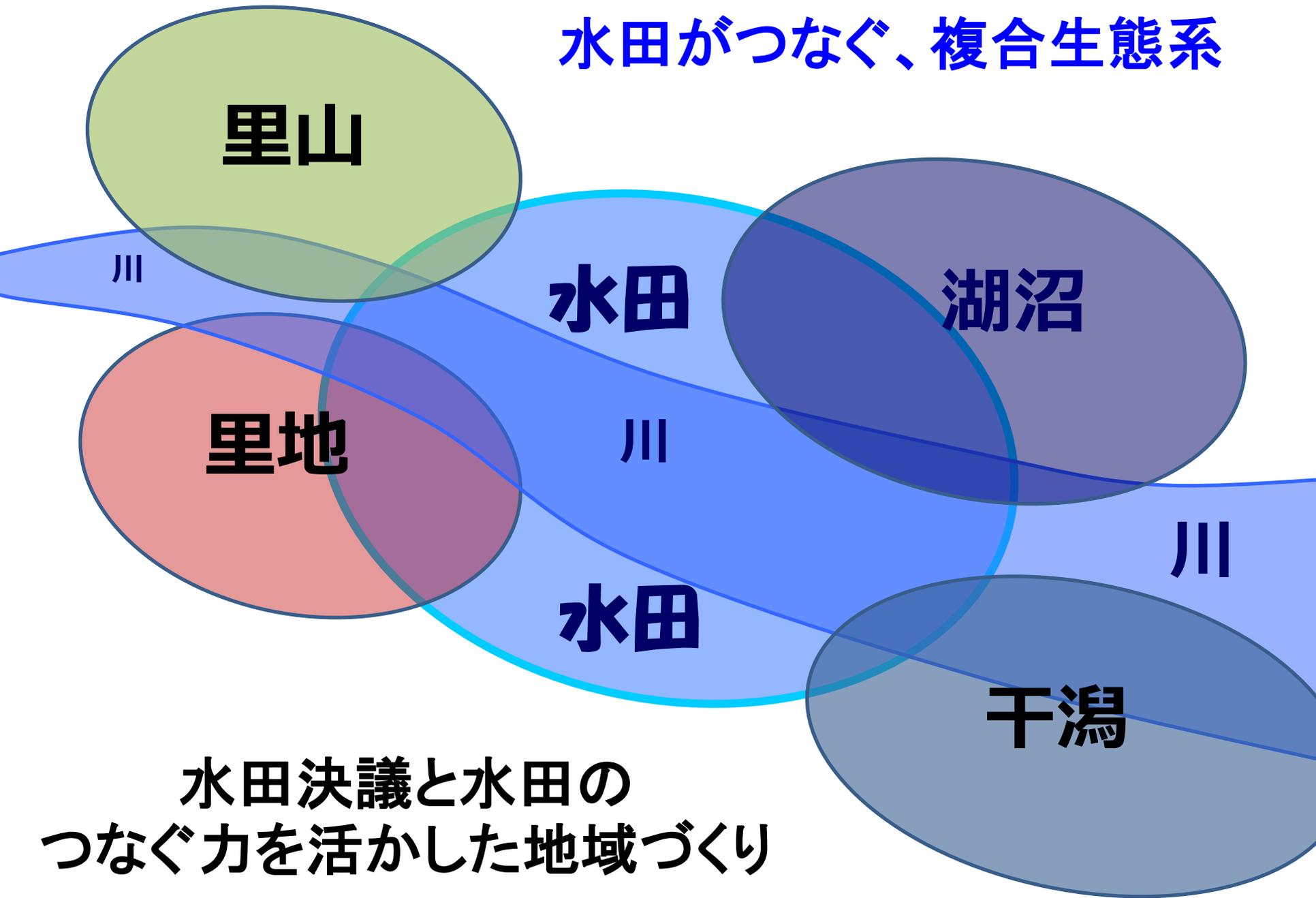


## 決議X.31: 湿地システムとしての水田の生物多様性向上

日韓両国のNGOが支援し、両国政府が共同提案して採択。

アジアから世界へのメッセージ

水田がつなぐ、複合生態系



里山

川

水田

湖沼

里地

川

川

水田

干潟

水田決議と水田の  
つなぐ力を活かした地域づくり

田んぼの中に  
宝が眠っている



# 田んぼの生きものの調査



# 5,668種の動植物の生息地

## Fauna and Flora in Rice Paddies in Japan (Keizi KIRITANI ed.,2010)

	no. of spp.
Insecta	1,726
Archnidae &	141
Amphibians & Reptiles	61
Fishes	143
Molluscs	73
Crustaceans & Rotifers	317
Nematoda & Annelida	91
Birds	189
Mammals	50
Protista & Cyanobacteria	597
Plants	2,075
Virus & Bacteria & Fungi	205
<b>TOTAL</b>	<b>5,668</b>

## 田んぼの生き物調査結果

改訂版

田んぼの生きもの全種リスト

福桐谷圭治 (Keizi Kiritani)

5,668 spp.

農と自然 生物多様性農業支援センター



# 陂塘(溜池)稲田模型 中国雲南省出土(2世紀ころ)

## 水田生物を資源として利用する文化



陶製陂塘稲田模型(2世紀頃)  
【大理自治州博物館所蔵】

- ・雲南省大理市大展屯号後漢磚室墓から出土(2世紀頃)。
- ・上半分が魚・カエル・タウナギ・蓮などが表現された陂塘(溜池)で、下半分がアゼで区切られた水田。
- ・仕切りとなる堤の中央に水門が設けられてある。
- ・副葬品として、四川、広東、雲南、広西、貴州の省区からのみ出土。

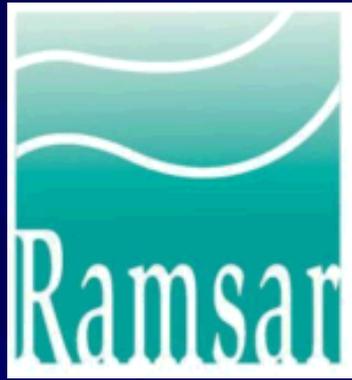
当時の稲作の様子を知る上での最良の資料。

(写真・文/渡辺武)  
「稲が語る日本と中国, 佐藤洋一郎(2003, 農文協)より」

約 40 cm



# ラムサール条約と生物多様性条約 水田との関わり



- **共通点**; 豊かな自然(生態系)をめざす
- **相違点**;
  - ラムサール条約; 特定の湿地を対象 (点)
  - **生物多様性条約; 地域にこだわらない (面)**
  - **湿地としての特性を活かした水田農業に、ラムサールの精神(「湿地の賢明な利用」)を生物多様性条約で面的拡大を図る方法を考える。**
- **両者の結合; 点から面への広がりをめざす**



Convention on  
Biological Diversity



# 生物多様性条約COP準備会合 (CBD SBSTTA 14)

## 水田生物多様性関連決議についての議論

May 2010 [国連ナイロビ事務所(ケニヤ)]



ナイロビのSBSTTAで、  
日本政府提案の水田決議  
支持発言を行う、  
ラムネットJ水田部会の  
メンバー





NGOが毎朝開く会議。日本のNGOでつくる市民ネットがホスト役を務める名古屋熱田区の名古屋国際会議場

国連地球  
生きもの  
会議  
COP10

# 「生物多様性の10年」「水田決議」採択へ

## 議長国NGO、存在感

### 政府に働きかけ

名古屋で開かれている国連地球生きもの会議（生物多様性条約第10回締約国会議＝COP10）の日本政府代表団に、日本のNGOから初めてメンバーが参加した。生きもの会議では、日本NGOの働きかけで日本政府が提案した二つの決議が採択される見通しだ。欧米のNGOに比べて影響力が小さいといわれてきた日本のNGOだが、生きもの会議を機に存在感が高まっている。

生きもの会議の日本政府代表団に加わったのは、コンサベーション・インターナショナル（36）、生態系の専門家だ。政府から、NGOのメンバーの推薦を求められた、100余りのNGOが参加する「生

物多様性条約市民ネットワーク（市民ネット）」が推した、環境関係の条約の締約国会議で日本政府代表団にNGOが加わるのは、昨年の気候変動枠組条約の第15回会議に次いで2回目だ。

代表団が情報共有などのために開く会合に参加し、NGOの立場で意見を述べる。「名古屋ターゲットが、生態系を保全する目的を達成するための計画になるように働きかけたい」と名取さんは話す。

NGO提案の決議の一つは、日本政府提案の「国連生物多様性10年」を支持する決議だ。18日の生きもの会議で、国連総会が採択を目指す「国連の10年」は、市民ネットの参加団体「ラムサールネットワーク日本」共同代表の奥地正行さんが、1年ほど前に普及、市民ネットが条約事務局や日本政府と話し合いを重ね、日本政府が5月の

生きもの会議準備会合と9月の国連総会で提案した。政府とともに各国へ賛同を働きかけてきた市民ネットの相木実さんは「NGOだけの提案では国連での採択は難しい。政府とよく連携できた。」

二つ目は「水田決議」。トジョウや昆虫など、さまざまな生きものが生息する水田は渡り鳥の中継地となる湿地にもなる。生態系保全にとって水田が重要な役割を果たしていることを認識し、生きものに配慮した農業に関する決議に盛り込む。これも、NGOの働きかけで日本政府とNGOが1年以上前から定期的な検討を続け、生きもの会議での提案につながった。

集まるNGOのホスト役を務めるのも、日本のNGOだ。情報交換や市民社会の声をどう議論に反映させるか、毎朝、ミーティングを開く。それを、世界のNGOのネットワーク「CBDアライアンス」とともに市民ネットが取り切っている。

# 生物多様性条約会議 でも NGOの活躍で、 「水田決議」(X/34) が採択

## —水田は生物多様性 保護と利用の典型例。 CBDの目的に最適—



# 水田の生物多様性が追加された 農業生物多様性・決議 (CBD COP10:X/34) のポイント

既存の農業生物多様性決議に水田決議を追加; #18, 19項

## #18

- ラムサール条約水田決議 X.31を歓迎
- 特に水田が、生物多様性を高く保つ優良事例であることを認識
- 締約国にラムサール条約水田決議 X.31の全項目(16)の完全実施を勧める

## #19

- 特に水田生態系の重要性を認識
- 国連食糧農業機関FAOに対して、該当のパートナーとの協議を行いながら、農業生態系の生物多様性と生態系サービスの評価に関するさらなる研究を行うことを勧め、
- それを締約国の政策に役立つようなガイダンスとして、次回会議(COP11)での考察を支援。

# 「国連生物多様性の10年」決議

2010年9月23日 朝日新聞

## 「国連生物多様性の10年」外相提言 NGO発 政府動かす

国連本部（ニューヨーク）22日に開かれた生物多様性をテーマにした初の国連首脳級会合で、前原誠司外相が、開催中の国連総会での採択を誓った。「国連生物多様性の10年」。2010年までを生態系保全のための重期間と位置づける。「国連の10年」は、日本の市民グループ約100団体で作る「生物多様性条約市民ネットワーク」への働きかけが日本政府を動かし、国際社会の場で表を動かすことになった。（神田明美）

## 市民ネット 国際社会へ連携訴え

10月に名古屋市で開催される国連議事COP10では、11年からの年までの新しい世界目標「生態系ターゲット」を、あらゆる国や国連機関



企業、NGOなどが目標達成のために協力する期間と位置づける。市民ネットは同日、「国連の10年」を支持する声明を発表。「野心的かつ現実的な目標を完成させ、政府、企業、市民などが一体となって達成にとりくまなくてはならない」と指摘した。生物多様性条約は、米国は批准していないが、「批准していない国も含め、国際社会

全体で、生物多様性の保全と持続的な利用を推進していくことが重要だ」と訴えた。「国連の10年」が、最初に発案されたのは、年明け、あるシンポジウムで、市民ネットの参加団体「ラムサール・ネットワーク」日本、共同代表の奥地正行さんが言及した。その後、市民ネットは「国連の10年」の表現を自指して生物多様性条約事務局や日本政府と話し合い、国連で提案するよう求めた。これをきっかけに、今年5月、ケニアで開催された生きもの会議の準備会合で日本政府が提案。各国政府が賛同した。国連総会では10月に採択される見通しのほか、生きもの会議でも支持される予定だ。「国連の10年」が国連に提

案されたことは、日本のNGO関係者は歓迎している。奥地さんは「生きもの会議が、終わって関心が薄れないよう、10年間は取り組んでいく必要がある」と思っており、日本のNGOの提案が国連の場に届き、やればできると思えた。世界自然保護基金（WWF）ジャパン代表の奥地正行さんは「これからの10年間は重要な。世界中のNGOに呼びかけていきたい」と「ラムサール・ネットワーク」代表の奥地正行さんは「これからの10年間は重要な。世界中のNGOに呼びかけていきたい」と話す。

国際生物多様性年・地球生きもの委員会報告会  
～「国連生物多様性の10年」に向けて～

Activities of Japan National Committee for IYB "Life on Earth"  
-Towards the UN Decade on Biodiversity 2010-



●様々な分野の生物多様性向上に関わる長期活動を支援する受け皿

●様々な分野の人々へ、「国連生物多様性の10年」計画への参加呼びかけ



NGO Initiative for UN  
Decade of Biodiversity

# 国連生物多様性の10年 行動計画 (2011-2020)

**水田決議  
(生物多様性向上)**  
(ラムサール COP10  
+ CBD COP10)

**にじゅうまるプロジェクト  
愛知目標  
(生物多様性回復)**  
18の水田目標 / 20の愛知目標

## 田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト

全国

地域

集落・個人

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

様々な分野の人々  
へ、「田んぼ10年プ  
ロジェクト」計画へ  
の参加呼びかけ

田んぼの生物多様  
性向上に関わる長  
期活動を支援する  
受け皿

# にじゅうまるプロジェクト

事務局：国際自然保護連合日本委員会

にじゅうまるプロジェクト  
参加登録制度

田んぼ以外の分野

愛知目標進行管理支援会議

年次大会

連携

連携

## 田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト

事務局：ラムサール・ネットワーク日本



参加者

# にじゅうまるプロジェクト



- <http://bd20.jp/>



10 田んぼの  
生物多様性向上  
年プロジェクト

# 生物多様性向上10年プロジェクト キックオフ集会

2013年2月9日、小山市



# 田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト



- NGOのラムネット日本水田部会が提唱。
- 国連生物多様性の10年の田んぼ版
- ラムサールCOP10とCBD・COP10で採択された水田の生物多様性決議を具体化する取り組みを提案
- 「愛知目標」達成をめざす「にじゅうまるプロジェクト」に参加
- 自治体には生物多様性地域戦略に水田決議の内容を盛り込むよう働きかける。
- 現場主義に立ち、各地の多様な人々の田んぼの生物多様性向上の取り組みを支援する受け皿
- 賛同者の輪を広げ、10年かけて目標の達成と、田んぼの生物多様性の主流化をめざす。

# 水田目標と(愛知ターゲット):18の水田目標 (1/2)

- 水田目標 1:水田の生物多様性向上に関する広報、教育、普及啓発を推進 ([普及啓発](#))
- 水田目標 2:国や地方自治体の各種計画に水田の生物多様性の価値を導入  
([各種計画への組み込み](#))
- 水田目標 3:水田の生物多様性保全を妨げる施策や補助金等を廃止し、または改革する  
([補助金・奨励措置](#))
- 水田目標 4:水田の生物多様性を向上させる施策や補助金等を拡大する。  
([補助金・奨励措置](#))
- 水田目標 5:あらゆるレベルの関係者が水田の生物多様性を向上させる行動を進める  
([消費と生産](#))
- 水田目標 6:生物多様性の保全に寄与している水田の損失速度をゼロに近づけ、水田の生物多様性の劣化を防ぎ、水田間の分断を減少する  
([生息地の破壊](#))
- 水田目標 7:水田の生物多様性が向上するよう農業が行われる地域を持続的に管理する  
([1次産業の営み](#))
- 水田目標 8:不適切な農薬や化学肥料等の使用による汚染から水田の生物多様性の損失を防止する  
([化学汚染](#))
- 水田目標 9:侵略的外来種による水田生態系への影響を防止する ([外来種](#))
- 水田目標 10:水田を利用する野生動植物の遺伝子の交雑を防止する ([外来種](#))

# 水田目標と(愛知ターゲット): 18の水田目標 (2/2)

- 水田目標11:生物多様性の保全に寄与している水田を保護地域システムに組み入れる  
([保護地域](#))
- 水田目標12:水田に生息する絶滅の恐れのある生物種の絶滅及び減少が防止され、減少している種が回復する  
([種の保全](#))
- 水田目標 13:水田の良好な生態系が人の健康、生活、福利に貢献するよう、水田を活用する  
([生態系サービス](#))
- 水田目標14 劣化した水田生態系の15%以上を回復する ([復元と気候変動対策](#))
- 水田目標15 地方自治体が、生物多様性地域戦略を策定、または改定し、または環境基本計画などを改定して、水田の生物多様性向上を実現する施策を実施する  
([効果的・参加型戦略](#))
- 水田目標16 愛知目標が取り入れられた生物多様性国家戦略、地域戦略及び各々の行動計画が確実に推進されるよう、進行管理を行う ([効果的・参加型戦略](#))
- 水田目標17 水田の生物多様性の現状や損失などの知識や確認方法を向上させ、各地で活用する。  
([知識・技術の改善](#))
- 水田目標18 水田の生物多様性の向上策を実行する資金と人材等を確保する  
([資金拡大](#))

# 田んぼの10年プロジェクト参加団体（全国/宮城:59/13）

（2013.08.23現在）

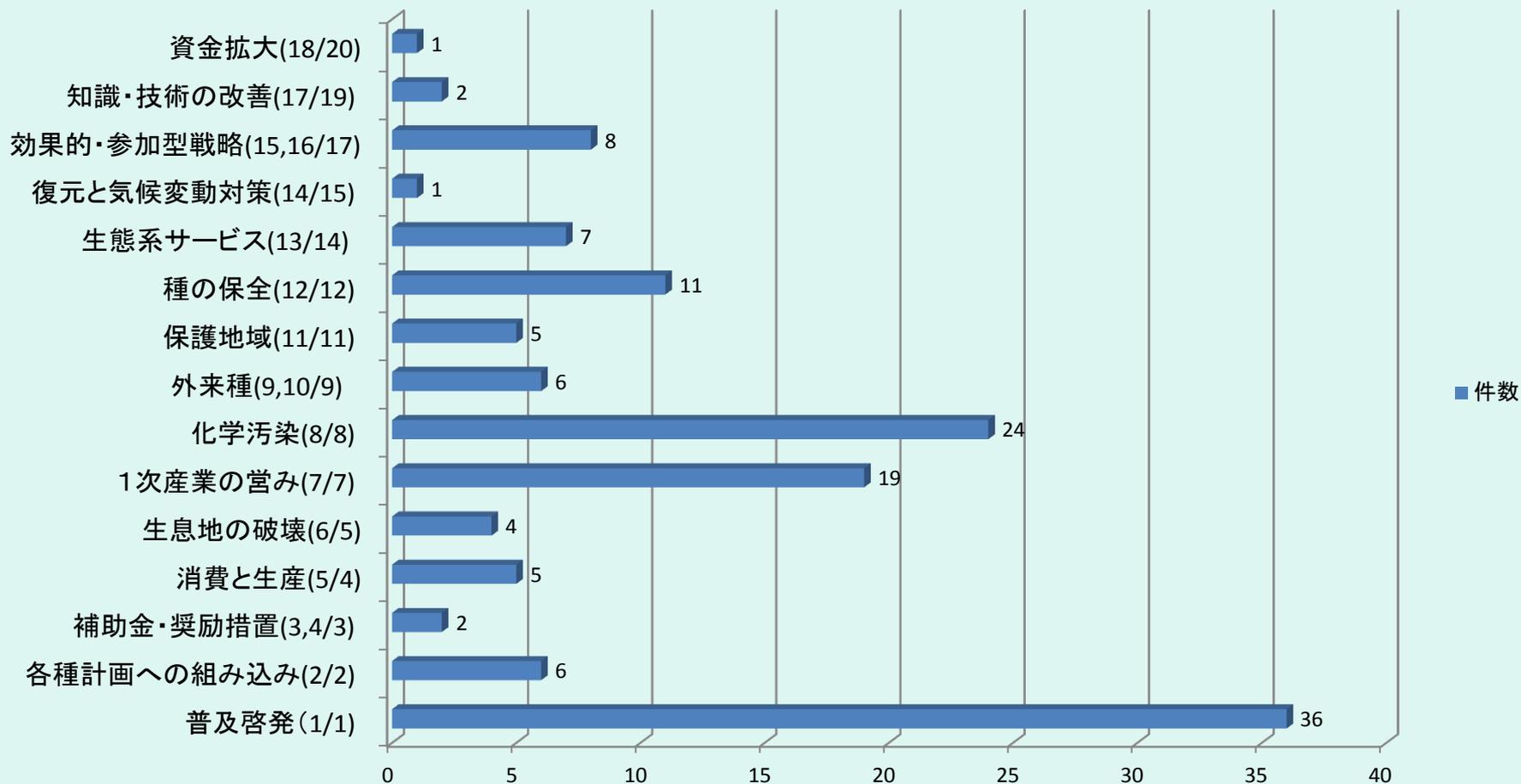
- 憩いの森・HACHIGATA
- 桐谷圭治
- 千葉孝志
- 日本雁を保護する会
- **NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ**
- 浅沼栄二
- NPO法人バードリサーチ
- 社団法人アーバンネイチャーマネジメントサービス
- 九重ふるさと自然学校
- **NPO法人田んぼ**
- 株式会社今野農園
- NPO法人 見沼保全じゃぶじゃぶラボ
- 佐渡市
- 時松和弘
- 企業組合 里と生きものネットワーク
- 農業組合法人 トキの夢営農組合
- 株式会社野田自然共生ファーム
- 安藤 満（日本農村医学研究所客員研究員）
- 小野寺 徹（旬の野菜 爽菜農園）
- **登米市 産業経済部 農産園芸畜産課**
- 豊岡市
- わたらせ未来基金
- 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会
- 猿山弘子
- 浅沼信治（日本農村医学研究所 客員研究員）
- 渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会
- 小山の環境を考える市民の会
- **宮城県の職員**
- 兵庫県但馬県民局豊岡農業改良普及センター
- NPO法人武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会
- **大谷いのちをつなぐ田んぼプロジェクト**
- NPO法人オリザネット
- NPO法人民間稲作研究所
- 一般社団法人グリーンオイルプロジェクト
- 小山市
- 稲葉忠次
- **伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会、  
有限会社伊豆沼農産**
- 公益財団法人 日本生態系協会
- 青木 新
- NPO法人自然史データバンクアニマnet
- 入郷棚田保全協議会
- 農と生きもの研究所
- **蕪栗米生産組合**
- 特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター
- 有限会社首都防災
- 堤 明
- 嶋田久夫
- 認定NPO法人 穴塚の自然と歴史の会
- 夏原由博
- 宇都宮市の市民団体
- **大崎市の農家**
- 川口市の企業
- 亀田 聡
- こども自然クラブ
- 埼玉県生態系保護協会 川口支部
- 有限会社ゆうま ぶどうの樹 ほっこり農園
- 奈良県立御所実業高等学校環境緑地科「生物多様性の保全」  
研究班
- 大見享子
- **峰沼環境保全会**
- 新海秀次

# 田んぼ10年プロジェクト目標別取組状況

(水田目標#/愛知目標#) (2013年8月1日現在)

## 田んぼ10年プロジェクト目標別取組状況

(水田目標#/愛知目標#)



ご清聴ありがとうございました

